

美術

美術科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表現する	造形的な美しさや表現の意図と工夫について考え、豊かな発想と構想を練る、多様な見方や感じ方を深める

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<p>ア 道具の扱い方についての理解が不十分なことで、用具を用いた適切な表現ができず、構想とのズレが生じ、造形・写実的な表現の未熟な生徒がいる。</p> <p>イ 空間をとらえることが難しく、立体的な表現や配色、形など表現の工夫・応用の仕方についてうまく表現できない生徒がいる。</p>	<p>ア 課題に対し道具の使い方や工程をわかりやすく説明した短い動画を鑑賞し、制作時に生徒と一緒に構造物や道具の使いかたについて考えることで造形的な視点の理解を促す。</p> <p>イ 実際に参考作品に触れ、近くで観察できるようにする。アイデアを練る際に学習プリントを配布し、課題の制作工程について段階的に構想を練ることで考えを深める。さらに、制作作品鑑賞で多様な見方や感じ方を深めるきっかけを作る。</p>	毎授業時間内	<p>ア 鑑賞を行ったことで、目で見て理解することができたが、鑑賞時間の欠席者は、制作時間を削って鑑賞を行うことになったため、制作時間に余裕をもって授業計画を行う必要がある。</p> <p>イ 様々な角度から作品制作のヒントを与えたことで、考えすぎ完成に至らない生徒が出てしまった。今後は、タブレット等を活用して、時間を短縮して制作時間を確保する。</p>
第2学年	<p>ア 自己の表現にあった材料や用具、表現の選択ができず、構想が曖昧なまま制作をしてしまい、作品の完成が見込めない生徒がいる。</p> <p>イ 課題から表現の意図をくみ取れず、豊かに発想・構想する力が弱いため、自己表現力が乏しく形の表現ができない生徒がいる。</p>	<p>ア 課題の意図や目標について明確に文字化して提示し、さらに細やかな解説を行う。また道具の使い方や工程をわかりやすく説明した短い動画や作品鑑賞を通し、材料や用具、表現方法について考えさせる。</p> <p>イ 鑑賞について、より生徒たちの生活に身近な例を選び、生徒自身が関心を持つよう促す。また、イメージを練る際に、課題に応じた具体的な設問をすることで段階的に構想し、考えや興味を深められるような学習プリントを配布し、生徒同士で内容を共有する。</p>	毎授業時間内	<p>ア 生徒自身が実践することで、用具や表現方法を理解し、工夫できるようになった。今後は、説明・解説と制作時間のバランスを工夫する。</p> <p>イ 制作活動に興味を持って取り組むことができたが、技法表現と構想がうまくかみ合わない生徒が一部見られた。今後は、タブレットを活用し、より端的で身近に感じられる例を用いた導入を行っていく。</p>
第3学年	<p>ア 空間能力の認識ができず、平面的に形をとらえてしまうため、作品に合った用具選びや使い方、制作工程・表現の選択ができない生徒がいる。</p> <p>イ 課題の意図を読み取れず、構想を練る中で題材を決め、具体的に構想・表現・説明することが難しく、また作品の工夫や応用表現が苦手な生徒がいる。</p>	<p>ア 課題についての意図や目標・工程を明示し、用具の基本的な使い方について実践・練習する時間を設け、技術的な感覚を身につけられるよう指導する。</p> <p>イ 作品の鑑賞を通して幅広い表現方法の可能性や、想像の幅を広げられる時間を設け、構想を文字や絵を用いてより具体化し、記録させることで記憶に定着させ、自らの作品の発想へつなげる。</p>	毎授業時間内	<p>ア 工程や道具の活用方法を具体的に示したことで、効果的に制作活動を行うことができた。今後も継続して指導を行っていきたい。</p> <p>イ 課題の意図の理解や構想は十分にできているが、課題量が多く、集中力がもたずに作品の完成に至らない生徒が多く見られた。今後は課題量を軽減し、授業計画に余裕を持たせる。また、課題に興味を持てるような手立てを考える。</p>

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを活用した情報の収集・アイデアの構築・制作工程や道具の使い方の確認。【個別・協働】 ・スライド機能での課題の共有。【個別・協働】 ・カメラ機能を用いた作品の工程確認や生徒同士の作品写真の共有。【個別・協働】 ・編集機能を用いたイメージ構成・添削。【個別・協働】 	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習目標や制作期間を明示した制作振り返りシートを毎時間確認・記入させ、自身の能力や目標、進捗の確認をさせる。 ・鑑賞や参考作品などを通して生徒の興味・関心を促し、簡単な道具の使用法を実践させ、成功体験を増やす。 ・対話から制作イメージや発想の仕方について考えさせ、その場で実演したり、実践させる。
--	--